

# 子ども会

第50号

発行 平成29年3月1日  
 企画・発行 神奈川県立青少年センター  
 〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1  
 TEL 045-263-4466  
 編集 神奈川県子ども会連絡協議会  
 〒241-0815 横浜市旭区中尾2-1-14  
 TEL 045-365-4546

## 目次

ページ

- ◆ジュニア・リーダー記者による地域の魅力的な活動事例①～③ 2～4
- ◆神奈川県ジュニア・リーダー大会、関東甲信越静地区子ども会ジュニア・リーダー埼玉大会、  
全国シニア・リーダー研修会 5
- ◆神奈川県子ども会大会、県立青少年センター子どもフェスティバル 6
- ◆ジュニア・リーダーの活動紹介 7
- ◆表彰、平成29年度事業計画 8

## ジュニア・リーダーの神髄を野島で見た！



大会ロゴ



### 横浜市旭区ジュニア・リーダースクラブ 大竹 一輝

平成28年8月4日(木)～7日(日)横浜市の野島青少年研修センターで「第47回指定都市子ども会ジュニア・リーダー(以下全ページ)横浜大会」が開催されました。この大会のねらいは、政令指定都市で活躍するJLが一堂に会し、各都市における活動の情報を交換し合い、研修を共にすることでJLの資質の向上と今後の活動の振興を図ることでした。

#### 妥 協せず根気強く

「きみ×ぼく=Jump up じゃん!」をテーマに、僕らが意識したのは3泊4日の中でJLとしての能力を高め合いながら、尚かつ楽しめる大会になっていることです。

大会を行う上で僕らが求めたことは、横浜らしさ・強いつながり・全員が楽しむ・お互いを知り、お互いを高め合う・みんなと同じ方向を向いて作る・何かを持って帰れる・横浜から始まるJLの発展・大会後につながる気づき・JLってすごいと思えるということでした。参加者の皆さんには、全て感じていただけたと思っています。大会を作っていく中で苦労したことは、普段違う環境で活動しているみんながひとつのものを作っていく中で、どうやったらみんなも自

分も潰さず動いていけるかということでした。私にできることはみんなの考えや気持ちを生かしたうえで、できるだけひとつにするように努めることだと思いました。いろいろな考えがあって分からなくなったりすることもありましたが、毎回自分たちで決めた基本や目的に戻ること最後まで諦めずにやり抜くことができました。今後のJLに期待することは私自身も含めてですが、このような素晴らしい活動をしている中でJL自身が今までよりもっと考え意欲的に活動していくことで、新しい可能性がまだまだあるのではないかなと思います。

#### 横 浜大会から全国に発信

最近では特に会員の減少や高齢化(育成者層のみの増加)、参加者の減少などが問題になりつつあると思っていますが、JLが既存の考え方にとらわれず色々なチャンスを実行していくことで、今までよりもっと青少年育成・まちづくりに協力していけるとしています。そしてJLがもっと社会に認知されるようになり、JLが全国が増えてますます活動しやすくなることに期待します。

### 横浜市磯子区ジュニア・リーダースクラブ 飯島 綾香

#### 熱 いバトンをつないで

指定都市大会の各プログラムは、皆で準備した熱いバトンを繋いでいくリレーのようでした。そのスタートダッシュを担った私たち親睦レクは、目標を「100%の人の期待感を100%にする」と掲げ、いかに違う環境やルールの中で育った、けれど志を同じくする各都市のJL達が4日間の大会に期待感をもちJLとして楽しく臨めるか、そこに焦点を当てて会議を重ねました。横浜各区のJL達は皆熱いものを持っていてJLが大好きな人たちで、熱いが故に意見がまとまらないこともあったけれど、JLが大好きな人たちと一緒に走れたことはすごく幸せでした。そんな皆とつくった親睦レクを通して、最初こそ表情の硬かった参加者もJLらしく跳んで跳ねて仲を深め、夕飯前には笑顔で自分の班で話している姿が見られて達成感でいっぱいでした。今回、皆で繋いだこのバトンを自分の区の未来へ繋いでいけるよう更に頑張りたいと、改めて強く思いました。

# 「カレー」と「お化け」がつなぐ子どもの輪 (川崎市川崎区渡田新町1・2丁目子ども会)



平成28年8月20日(土)、渡田新町1・2丁目子ども会による恒例のカレーパーティー・お化け大会が川崎区渡田新町1・2丁目町内会館で開催されました。

この日は雨にもかかわらず多くの小学校低学年生や幼児が訪れ、小学校5・6年生が作ったカレーライスをおいしそうに食べていました。また、川崎市消防局の職員による映写会も行われ、防火に関する講話やビデオを見て楽しんでいました。最後には町内会館の一部屋を暗くして、小学校5・6年生がお化けに扮装してお化け大会が行われ、子どもたちはもちろん、保護者の方も恐怖の雄叫びを上げていました。主催者の川崎区渡田新町1・2丁目子ども会、吉永康弘育成会長によると、地域の方々や消防署の協力で20年以上続けられている行事で子どもたちも楽しみにしているので、これからもマンネリ化しないように新しい企画も入れながら末永く続けていきたいとおっしゃっていました。

## 夏休みの子どもの楽しみ

この行事では、夏休み真最中の小学校1～4年生は参加者、小学校5・6年生は企画者となり、カレーを食べたり、お化け大会をしたりします。お化け大会で使われているお面や着ぐるみは代々受け継がれていて、小学校5・6年生になったら、あのお面をつけたいなど、行事を受け継いでいくモチベーションとなっています。



川崎市川崎区ジュニア・リーダーズクラブくじら  
縄田 未来 (ガチャ)  
藤井 和樹 (FUJISAN)

また、地域の方々も大勢参加していて、地域交流の場にもなっています。参加者側の小学生に話を聞くと、この行事の良いところは、夏休みでも友達と会えることだと言っていました。企画者側の高学年に話を聞くと、昨年まではおどかさされる側だったが、おどかさ側になってとても気持ちよかった、お化けとしての役割を協力してできたといった感想を聞くことができました。

## 防火意識を子どもたちから

今回の行事には川崎市消防局の職員にも来ていただきました。「小学校低学年に分かるようにしゃべるのは大人に話をするより難しいですね。子どもは反応が素直ですから」と語って



くれた職員の方。「やはり防火講習会というだけでは子どもたちは集まりにくいです。こういった地域の子どもたちが楽しみにしている行事とコラボすることで、子どもたちにも集まって聞いてもらえると思います。子どもたちと接する機会を多くするためにこういった地域と密着している行事にもっと多く顔を出して子どもたちに防火意識を浸透させていきたいですね」と語った職員の方の目から、地域防火を子どもたちから広げたいという強い意志が感じられました。

## 取材を終えて

子ども会には様々な学年の子どもたちが集まります。違う学年の友達を作る機会でもあり、リーダーを育てていく大切な機会でもあります。私たちの取材レポートを参考に、他の子ども会の発展につなげてもらえるとうれしいです。(ガチャ)

お化けが苦手な子がいたら、大丈夫と声をかけ、高学年ががんばれと応援している様子から、学年を超えた絆がこの行事を通して生まれているんだなと思いました。このような地域全体で関われる行事が区内に広がっていけばいいなと感じました。(FUJISAN)



## 大和市のかわいいゆるキャラ ヤマトンよ (大和市子ども会連絡協議会)



平成28年9月3日(土)に大和市青少年センターで、大和市子ども会連絡協議会(以下大和市子連)主催の「子ども会カルタ大会」が開催されました。18チームおよそ80人の子どもたちが参加し、白熱した戦いを見せました。

### カルタが生まれた経緯

今回使用されたカルタは、小学校高学年のジュニア・リーダー育成を目的として、毎年3月に行われている宿泊研修「ジュニア・リーダー研修会(以下JL研)」で、平成27年に作成されたものです。カルタは大和市をテーマに、有名なものからマイナーなものまで、子どもたちが自分たちで考え、友達と協力し作りました。当時のJL研参加者で、今はサークルありんこで活動している佐藤唯花さん(12)は、作ったときのことについて「大変なことより、楽しかったことしかありませんでした。そう言い切れるくらい楽しかったです」と話しています。

今回のカルタ大会の開催にあたり、大和市子連会長の小川陽子さんは、「カルタを作ったときから、いつか大会をやりたいな、と思ってました。1年半かけてこれを実現することができました」と話していて、とても楽しそうな表情を浮かべていました。

### 18チームの熱戦

開始時間が近づき、会場にやってきた子どもたちの表情はカルタ大会が楽しみで期待にあふれていました。そして試合が始まると、その表



### 大和市ジュニア・リーダーズサークルありんこ 横森 皇陽

情は本気のものに変わり、全員が優勝を目指し、白熱した試合を繰り広げていました。そのため、私も審判をしていて思わず力が入ってしまいました。

予選リーグが終了し、それぞれの予選グループから決勝トーナメントに進むことのできる2チーム、合計4チームが発表され、惜しくも予選敗退となってしまったチームの子どもたちは、悔しそうな表情の中に、どこかやりきった、満足そうな気持ちを感じました。

### 仲良しが勝利の秘訣

今回私は、このカルタ大会の優勝チーム「みこと」にお話を聞くことができました。このチームは、決勝前は「私たちは、友情で勝ちにいけます」と宣言しており、それが現実



優勝チームの「みこと」

となりました。その後の話でチームのリーダーは、「(予選)リーグ戦では何回も連続で戦ったため、少し大変だった。途中で負けそうになったこともあったが、友情の力で無事勝つことができましたよかったです」と話しています。また、今回人数調整の関係で特別に参加したJLからは、「子どもたちの熱気を間近で感じ、今回の大会は成功だ、と感じました。また次回も開催してほしいです」と話しています。

カルタ大会終了後には、「お楽しみ抽選会」と称し、抽選会を行いました。ここでなんと、大和市のゆるキャラである「ヤマトン」が来てくれました。これには子どもたちも大喜びでした。今回の抽選会では、ヤマトン(もちろんぬいぐるみです)が景品となり、こちら也大いに盛り上がりました。

### 取材を終えて

イベント終了後、小川会長は、「子供たちが楽しんでくれたようでとても良かった。今回のように子どもたちが子ども会の域を超えて交流を持つことができる機会はきっといい経験になったと思う。今後も、カルタに限らず、様々なことを企画したい」と話しており、私もJLとして、次のイベントに期待したいと思います。

# 地域に根付く子どもたちの育成のために (横浜市緑区中山町子ども会育成会)

横浜市ジュニア・リーダーズクラブ  
菊地 景子



平成28年7月23日（土）横浜市立中山小学校で緑区中山町子ども会の小学生150人が集まり、「子ども会キャンプ」をしました。このキャンプでは、星空映画会などのレクリエーションのほか、避難生活時の宿泊体験も含まれており、体育館に宿泊するなどの「いざという時の備え」としての体験もできました。また、警察署・消防署の協力で交通安全教室（自転車）や消火器体験、起震車体験を行いました。

## 高まる防災キャンプとしてのニーズ

町内会の相原会長と古内さんにお話を伺ったところ、最初は28年前に公園で子ども7人、大人14人が集まって夏休みのイベントとしてキャンプを行っており、年々増加していったとのこと。東日本大震災を機に地域の関心が高まり、その年には240人の参加があったそうです。来てくれた人達全員に「参加して良かった」と思ってもらうことでリピーターを獲得しました。また、参加した子どもたちが地元の良さを理解することで、この地域に残って欲しいとのことでした。

## 大人の思いを受け継ぐ子どもたち

大人達の思いは参加した子ども達にもしっかりと伝わっているようで、多くの子ども達が「楽しくて毎年来ています」とのことでした。低学年の頃に日帰りでは参加できなかった3年生の女子は「今年はお友達と一緒に泊まりできるのが楽しみ」とワクワクが止まらない様子。一方、6年生の男子は「今年で



最後の参加になってしまうかもしれないと悲しい」と言います。なぜかという、今回も中学生は部活が終わってから訪れた2~3人程で、やはり中学生になると部活や塾などで参加は難しくなるようです。そういう参加状況の中でも「もしも部活とかが休みだったら中学生になっても絶対来たい」と話していたこの6年生男子の姿はとても印象的でした。

## 取材を終えて

この町内会ではJLを知っている人は極々僅かでした。インタビューに答えてくれた彼のような「地域に関わっていきたい」と望んでいる子どもが、JLになり、技術や知識を大人達から教わり、いろいろな地域の活動で活躍する。その姿に憧れた下級生達が次のリーダーになって…というサイクルが理想の子ども会活動だと改めて思いました。



# 神奈川県子ども会

## ジュニア・リーダー大会

神奈川県子ども会連絡協議会 シニア・リーダーズクラブ 代表 渡邊 あゆみ

9月17日(土)～18日(日)に、厚木市七沢自然ふれあいセンターにて、第12回神奈川県子ども会JL大会が開催されました。大会を迎えるにあたって、私たち神奈川県子ども会連絡協議会シニア・リーダーズクラブ(以下県子レンジャー)が、企画内容の立案、運営を行いました。

今回は、参加者が、JLとしての意識を持ちつつも、心から「楽しむ」ということを目的としました。その中には、楽しむという気持ちを思い出しながら、いざ自分達が地元に戻ったときには子どもたちにどんな企画をすればいいのかとスタッフの動きなども見ながら考えるきっかけを作るという意図も含まれていました。アイスブレイクから、まとめのプログラムまで5つのプログラムを行い、参加者の人数は例年より少なかったものの、少ないからこそお互いのことをよく知り、情報共有などもできた、つながりを作ることができた濃い大会になったのでは



と思います。県JL大会にご参加頂いたJLの皆様、ご協力頂いた指導者の皆様、ありがとうございました。これからも、今後の子ども会活動を担うJLのために県子レンジャーは頑張っていきます！

# 関東甲信越静地区子ども会

## ジュニア・リーダー埼玉大会

小田原市ジュニア・リーダーズクラブ 星野 真奈

今年度、はじめて関東甲信越静地区子ども会JL大会(以下関プロ)に参加しました。私は人と交流するのがあまり得意な方ではないので、参加する前は心配でした。しかし、それは取り越し苦労でした。参加者の人たちはとてもフレンドリーで、私も自然と仲良くなっていました。特に、活動班では一緒に2泊3日を活動できたことで、とても強い絆が得られました。2日目のニョロリンピック(レクゲーム)やキャンプファイヤーで

は、班で力をあわせてがんばることができました。

関プロはいろいろな県の人が集まるので、私が知らないレクや私の地域では行っていない普段の活動などを学ぶことができました。

また来年度も参加することで、他県のJLと交流して、自分の地域にそのノウハウを還元していきたいと思っています。

# 第3回全国子ども会

## シニア・リーダー研修会

川崎市子ども会連盟 シニア・リーダーズクラブ むげん 会長 田代 晴子

平成28年9月18日(土)～19日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「第3回全国子ども会シニア・リーダー(以下全ページSL)研修会」が開催されました。開会式では「子ども会は変わらなければならない時が来ている。ただ子どもを楽しく遊ばせるだけではなく、今は、人間形成を遊びの中で目指す、いわば目的を伴った活動が必要である」という問題提起がなされ、活動が始まりました。1日目は今まで

のレクリエーションから体験学習を取り入れたプログラムへの転換が提起されました。これはアメリカ発祥のPA(プロジェクト・アドベンチャー)という活動です。参加者は講師によるPAの体験を通して、多くの気づきを得ることができました。そこからあらためて私が強く感じたことは、「SLは自分のJLの時の財産だけで後輩の指導を行うのではなく、新しいものや情報から学び続けていく必要がある」ということです。2日目は「以前行われた全国JL大会を復活させるべきか」、「SLという名称でいいのか」という問題が与えられ、グループごとに意見を出し合い、最後にはひとり一人自分の考えをホワイトボードに書きました。最後に希望者が全員の前で思いを伝える機会を与えていただきました。この研修に参加し、子ども会におけるSLという青年層への期待が高いことが分かりました。そこからJLで子ども会を卒業してしまうのではなく、次の世代へと伝えていくSLの層の充実が求められていると感じています。



# 平成28年度神奈川県立青少年センター 子どもフェスティバル、子ども会大会の様子

## 毎回、新たな学びや発見がある 子どもフェスティバル参加は私のライフワークです

神奈川県子ども会連絡協議会  
シニア・リーダーズクラブ  
山崎 栞

今年度は子ども会大会の司会とJLの活動発表だけでなく、より近くで子どもたちとふれあいたいということで、ブースも復活させました。ブースで何をやるかを決める際は数多くの案が出されましたが、取捨選択の結果、バルーンアートに決定しました。神奈川県子ども会連絡協議会シニア・リーダーズクラブ(以下県子レンジャー)を中心に、JLと一緒にバルーンアートに取り組みました。前日と当日で打ち合わせしたり、練習したりして、バルーンアート制作がほぼ初めてのJLも、基本の犬と剣を作れるようになりました。当日は、バルーンアートを作る体験をする子ども達が多くいました。普段あまりバルーンに触れることがないため、貴重な体験になったと思います。みんな上手に犬と剣が作れていてびっくりしました。私たちがバルーンアートを作って渡す方では、小さい子が多く来て、わたしたちが作っている所を夢中で見ていました。子どもと話しながらバルーンアートを作る県子レンジャーやJLは普段子どもと接しているため、楽しませるように話して下さりだなどと思いました。ブースの運営は人数が少ないなが

ら、それぞれ自分のできることを探し、協力しながら行うことができたので良かったです!

「子どもフェスティバル企画・体験セミナー」では、10月から打ち合わせを重ねてきました。最初は人数が少なくどうなるかと思いましたが、経験のあるJL、県子レンジャーが中心となり人数も増えていき、打ち合わせを重ね、当日をなんとか迎えることができました。いろいろな地域のJLと交流し、ともにイベントに向けて取り組むことで、新たな刺激や発見もあったと思います。それぞれがステージやブースで活躍し、そのためにどのように魅せるかなど試行錯誤の連続でしたが、当日は皆一様に満足げな表情を浮かべていました。

それぞれが、今回の経験から学んだり発見したりしたことを持って、今後の活動で生かし活躍してほしいと思います。毎年参加していますが、メンバーも毎回変わり、その時のメンバーだからこそそのものを作ることができ、私自身も毎回、新たな発見や学びがあります。そんな子どもフェスティバルに皆さんも参加してみませんか。今回もすばらしい体験を、ありがとうございました!



## 司会という大役を担って

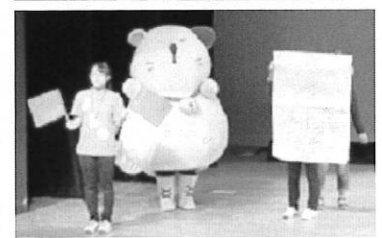
海老名市ジュニア・リーダーズクラブ  
船松 千夏

今年の司会は4人と少ない人数での活動でした。企画・準備時はセリフや流れ・衣装についてなどの話し合い・確認を楽しみつつ行いました。人数が少ないことで各々の意見を取り入れることができましたが、セリフ量が多くなることもありました。特に、前日に変更点が出てきたり、ゆるキャラの登場など新たに考えたりしなくてはならず大変でした。

当日、表彰式から子ども会大会へ移る際は着替えなどがあり、慌ただしかったです。緊張していましたが、発表の間に確認や打ち合わせができ良かったです。しかし、時間の事や、セリフの事を考えると不安ばかり感じていました。舞台に出る際は思いも届けられるように意識し、ミスをカバーし合いました。各々悔いも残りましたが、終始楽しみながら進め、

最後には達成感を得ることが出来ました。4人それぞれが協力し合ったからこそ、最後までやりきることができたのだと思います。

私たちの司会で少しでも、子ども会や発表団体の皆さんのお力になれたのなら嬉しいです。ありがとうございました。



## JL活動発表に参加して

神奈川県子ども会連絡協議会シニア・リーダーズクラブ  
相原 綾菜

今年度のJL活動発表では、各地域で必ず行うキャンプをJLが寸劇 & クイズ仕立てで行うことになりました。

10月にあった第1回子どもフェスティバル企画・体験セミナー(1泊2日)では、どういった発表にするのかテーマを決め、今年は【子どもが見ていて楽しめるように!】というのを前提に、どうしたら子どもは楽しんでくれるのかを話し合いました。

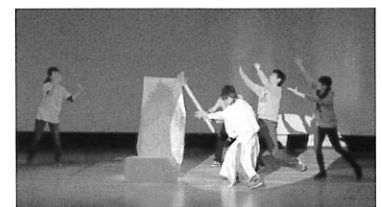
第2回から徐々に人数も増え、役割決め、セリフ台本決め、小道具作りに取り掛かりました。

セリフ台本決めでは、JLみんなで協力し、言いや

すいセリフに変更していきました。また、普段活動を行なっている時にどう動くのか、どう子どもたちに話しかけているのかを各地域の活動を参考に台本を作り上げました。

小道具作りでは小道具に使う材料を切ったり色を塗ったりとみんなで協力をし、完成させました。

本番では、練習の積み重ねと県立青少年センター舞台芸術課の濱田さんの指導もあり、今までで1番の演技を来場者のみなさんに見せられたと思います。他市との交流、協力することが出来たJL活動発表だったと思います。



# ジュニア・リーダーズクラブ紹介

茅ヶ崎市ジュニア・リーダーズクラブのメンバーは中学校2年生から高校3年生までの20人で、今秋には中学校1年生8人が入会します。今年度のスローガンを「Re:Action」と定め新たな挑戦・目標に向かって切磋琢磨しています。主な活動として、子ども会からの要請に基づいたゲーム指導や子どもたちとの交流、市役所が主催する「自然体験教室」「遊び体験教室」事業への



の参加、JLとしての能力を高めるための研修会、親睦を深めるためのお楽しみ会など定期的開催しております。特に「自然体験教室」「遊び体験教室」においては、小学

## 茅ヶ崎市ジュニア・リーダーズクラブ

会長 野田美紗貴

生と交流を深めるだけでなく、JLを目指すきっかけとなる事業であり、特にレクリエーションなどは魅力あるものとなるよう工夫しております。今年の「遊び体験教室」はYMCA三浦ふれあいの村で開催され、ゲーム交流、キャンドルファイヤーやいかだ体験などを通して子どもたちと思い出に残る2日間を過ごしました。今後もJLへ興味を持ってもらえるような活動を目指したいと思います。

## 川崎市宮前区ジュニア・

## リーダーズクラブ「かいわれ大根」

塩見奈菜・野村海斗



私たち、川崎市宮前区ジュニア・リーダーズクラブ「かいわれ大根」では、今年度、中学校1年生から高校2年生まで、総勢18人で活動しています。活動着のTシャツのデザインを一新し前年度以上に活動を盛り上げ

ているところです。主な年間活動スケジュールは、5月の開講式から始まり、年4回の自己研修を行っています。また、区内の子

どもリーダー（小学校4年生以上）研修会では、ゲーム研修や野外炊事などを年間を通して、子どもリーダーにレクチャーしています。中でも特に、8月に行われる、子どもリーダーとともに生活を共にする2泊3日の八ヶ岳研修

は一大イベントとなっています。

今年度は、今いるJLが誰も経験したことのないキャンドルファイヤーに挑戦し、参加者から好評を得ることができました。

また、これらの活動をより良いものにするために、川崎市SLの方々が行う年7回の研修会にも参加しています。自分たちの知らない技術や活動を教えていただき、毎回勉強になります。

これからも、宮前JL「かいわれ大根」を末永く応援いただきますようお願いいたします。



横浜市保土ヶ谷ジュニア・リーダーズクラブは、現在30人弱の会員がいます。

年3回の宿泊研修では班をまとめる「班付きリーダー」やそれを支える「サブリーダー」を経験することでリーダーとして自覚し成長をしていきます。バザーや区民祭で区子連のお手伝いや、出張で単位子ども会の行事に参加してレクリエーションや製作活動と一緒に過ごせることを通じて、子ども



## 横浜市保土ヶ谷ジュニア・リーダーズクラブ

代表 中山郁美

たちから慕われることでリーダーの楽しさを感じています。これらを励みに少しでも仲間が増えるようシニア・リーダーも協力して活動をしています。



～平成27年度表彰～ おめでとうございます

平成27年度公益社団法人全国子ども会連合会表彰

60周年奨励賞

横浜市子ども会連絡協議会

育成者・指導者

(敬称略)

飯野 美智子(横浜市瀬谷区) 福永 浩世(横浜市西区)  
 石橋 明彦(川崎市高津区) 氏家 清一(川崎市川崎区) 中村 清武(川崎市多摩区)  
 島田 文子(小田原市) 高橋 豊(厚木市) 加藤 由江(綾瀬市)  
 (島田文子さんは平成27年10月に急逝されました。ご冥福をお祈りいたします。)

平成27年度神奈川県子ども会連絡協議会永年功労者表彰

個人

(敬称略)

横浜市

磯子区：原 国晃・林 しおり

川崎市

宮前区：澤井 純子・下戸 陽子・本田 厚・岡崎 悦子  
 高津区：水野 伊佐夫・大久保 陽子・土井 秀太 川崎区：糴田 良平  
 多摩区：鈴木 ゆかり・榊田 ひろみ

横須賀市

稲垣 三千代

茅ヶ崎市

服部 順子・池西 達郎

大和市

小川 陽子・牧山 恵美子・冨田 喜典

座間市

加納 久美子

綾瀬市

矢澤 洋

厚木市

岩屋 郁男

清川村

山口 シゲ子・山口 久茂・山口 志ず子

平成29年度子ども会のおもな予定

(事業計画)

平成29年 5月	県子連*1総会・県子連SLC*3総会、 全子連*2総会
6月	関プロ*4総会(神奈川県)
8月3日～5日	指定都市地区JL*5大会(広島市)
8月18日～20日	関プロJL大会(千葉県)
10月29日～30日	関プロ育成研*6(神奈川県)
11月	政令指定都市地区育成研究協議会(北九州市)
平成30年 1月21日	子どもフェスティバル(県立青少年センター)
2月	第13回県JL大会

連絡事項

神奈川県子ども会大会、各地区研修会など日程や  
 参加募集など詳しくは、神子連\*7のHPアドレス  
[\(https://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/\)](https://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/)で  
 ご確認下さい。

- \*1 県子連…神奈川県子ども会連絡協議会
- \*2 全子連…公益社団法人 全国子ども会連合会
- \*3 SLC…シニア・リーダーズクラブ
- \*4 関プロ…関東甲信越静地区子ども会育成連絡協議会
- \*5 JL…ジュニア・リーダー
- \*6 育成研…育成研究協議会
- \*7 神子連…一般社団法人 神奈川県子ども会連合会

編集後記

第50号広報誌発刊に際しまして原稿をお寄せいただきましたシニア、ジュニア・リーダー、また、関係者の皆様方、ご協力ありがとうございました。

今回もジュニア、シニアの皆さんが研修の成果を発揮し、子ども達とともに体験した、指定都市子ども会ジュニア・リーダー横浜大会、また、学校と連携したキャンプ等盛りだくさんの事業内容が掲載されております。

これからも、未来を創る子ども達、青少年の一人ひとりが、自分の良さや可能性を発揮し豊かで幸せな生き方を切り開く力、ともに温かい社会をつくり出していく力を伸ばしていく事を願っております。

広報誌担当委員長 片岡 喜久江